

平成 28 年度（第 2 回）リスク管理・コンプライアンス委員会 議事概要

- 1 日 時：平成 29 年 3 月 7 日（火） 14：00～15：30
- 2 場 所：独立行政法人勤労者退職金共済機構 19 階役員会議室
- 3 出席者：理事長代理、理事 2 名、外部有識者委員、総務部長、システム管理部長、資産運用部長、業務運営部長、契約業務部長、給付業務部長、事業推進部長、建設業事業部次長、加入・履行促進事業部長、清酒製造業・林業事業部長、勤労者財産形成部長、監事 2 名（オブザーバー）（欠席 理事長）
（総務部兩次長、総務課長、監査室長）

4 議事

- (1) 開会挨拶（総務部長）
- (2) 機構を取り巻くリスク管理項目及びリスク評価一覧について説明
リスク管理項目及びリスク評価一覧について、前回からの異動（新規追加、リスクに対する対応・考え方、リスク度合いに変化のあったもの）について説明し、ディスカッションを行った。
- (3) コンプライアンスの確保について
適切な労働時間管理に関するディスカッションを行った。
- (4) 総務担当理事挨拶
- (5) 閉会

5 主な内容

- 業務の一部を外部に委託する場合については、委託先のリスクをどのようにマネジメントしていくかが、民間企業でもひとつの 이슈となっている。業務の一部を外へ出すことで、自前で業務を行うよりもコストを抑えられるというメリットを享受している以上、その責任も負うべきではないかという発想から、委託先企業の管理の問題が最近は出てきている。
- 自分たちが抱えているリスクを認識することは大事ではあるが、組織や業務は生き物であり、見落としもある。ただ、気づいた時点で追加していけばよく、不断に見直していくことが重要である。また、書かれていないことで問題が起きることは十分に考えられるため、そうしたことにも対応できるアンテナを張っておくことが重要である。
- 残業時間の抑制には業務の見直しが必要である。機構の性質上間違いを避けるために丁寧に仕事をしなければならないというのは理解できる。しかし、他方で無駄な業務が本当に無いか、そういう観点で、引き続き業務を見直して行く必要がある。

- 管理職が疲れ果てている状況は、組織の魅力の低下に繋がり、長期的には採用できる人材の質の低下などの問題へとつながりかねない。どの階層も生き生きと働いている組織が魅力的と思われる。

(以上)